「高齢者聞き書き」で創る交流事業プロジェクト

藏野　ともみ　教授
（人間関係学部　人間福祉学科）

1　本プロジェクトの目的

コロナ禍において地域に住む高齢者は、社会的交流が減り、心身に大きな影響が与えられていると言われている。同様に、大学生も大学での対面授業等は始まり徐々に動き始めたものの、ボランティア活動や学外実習等学習面では未だ制限が多く、コロナ前に比べ、多様な形態の学習と活動の機会を奪われている現状を捉えたことから本プロジェクトは始まった。

本プロジェクトは、高齢者を「おはなしさん」とし、その高齢者の話を聞き、様々な思いを文章にまとめる「ききがき(聞き書き)さん」を学生が務め、世代間交流を行う。これらの活動を通して、高齢者の社会的孤立を防止し、学生にとっては多様な人々を知る機会として、コミュニケーション技術を身に付け、コミュニティの一員としての役割について考えることを目的とした。

すなわち、社会的及び家庭的に埋没しがちな高齢者の知恵、見識、主張等をお話しいただき、誰もが読みやすい文章にすること、これらの文章や聞き書きの活動を通してコミュニティ形成を醸成していくためのプロジェクトである。

本プロジェクトを通して期待される効果としては、コロナ禍において社会交流が減っている高齢者の社会的孤立への関わりの１つであると考える。また高齢者の話を聴く「傾聴」や「自分史作成支援」と異なり、聞き書きの特徴である高齢者の話を聴いて分かりやすい文章として記し、多くの人に読んで貰うことにあり、本事業の満足感の主体は話し手である高齢者及び聴き手である学生、それを読む読者に均一に求められると考えられる。

高齢者同様に、多様な形態の学習機会や活動を奪われている学生にとって他者の関わりとコミュニケーション技法の学習、成果物として形にすることでの達成感等の効果が期待される。



写真１：初めての聞き書き練習



写真 2:ロールプレイを見ながら、ポイントを学習する

2　実施内容

聞き書きの基礎について演習を交えながら学んだ上で、本プロジェクトの趣旨に賛同くださった高齢者の皆様のお話しを伺う機会を設け、学生が文書を作成し、再度、対面で学生と高齢者が話しをしながら、一緒に加筆・修正しながらまとめていくことにした。

今回は、はちおうじ志民塾(主催：八王子市)の卒塾生有志の団体である「とうゆう会」のご協力の下、実際に聞き書きを実践する前に講義と演習を繰り返した。具体的には、人間福祉学科 13　名の学生に対して、とうゆう会のメンバー4 名を講師として迎え、4 回に渡り「聞き書き講習会」を実施した。学生同時またはとうゆう会メンバーを相手に聞き書きの体験と、その後良かった点や修正点をデ

ィスカッションし、ポイントやコツを学んだ。

その後、八王子市南地区の地域包括支援センター等の協力で紹介を受け、本学までおいで頂ける計 7 名の高齢者を「おはなしさん」としてお迎えした。学生 1 名もしくは 2 名 1 組で、「おはなしさん」と対面し、2 回程聞き書きの実践と文書作成、校正の依頼、再度対面での追記等を行った。さらに、交流事業として、茶話会を開いたり、クリスマスカードや年賀状等を通して交流を行うことができた。

今回共同した「とうゆう会」は、はちおうじ志民塾（主催：八王子市）の卒塾生有志が各自の知識や経験を活かし、ボランティア活動やコミニュティビジネスなどを通じて地域社会に貢献することを目的に立ち上げた団体であり、2013～2014 年度に聞き書きについて独立行政法人福祉医療機構の助成事業として行ってきた実績を持つ。教員とどのような教材で学生に講義と演習を行うか、学生一人一人の聞き書きの特徴に対したアドバイスはどのように行うか等を協議しながら進め、実際の場面では高齢者との橋渡しを行って頂いた。



写真 3：1 回目の聞き書きを終えて





写真 4：聞き書きの様子

3　考察

実施後、学生は「聞き書き」に初めて触れ、基礎学習の際に、他者の話しを「聞くこと」「質問をしながら話しを深めること」「書くこと」を同時に行う難しさを実感し、相手の行間に込められた思いを汲むことがどれ程大変なことかを感じるようになったと感想を述べている。

さらに、実際に「おはなしさん」を目の前にすると、緊張し、お話しになることを漏らさないように書き留めることに集中することもあり、改めてコミュニケーションの深さを考える機会となった。

また、お話しになる方の人生、時代背景、地域の状況等を理解することの必要性についても実感したとのことであった。緊張感漂う聞き書きの時間と異なり、交流会となると話しが弾み、相互に感想を伝え合ったり、自分の好きなことを話す等、学生の自分たちらしさを発揮できていた。

今後、学生は、将来介護・福祉専門職や、企業での営業職等を目指すことになるが、それぞれの進路の中で、違う文化や世代の人々とお話しをさせて頂くこと等も多いと考えられる。「実習での経験があったので、緊張しないと思っていたが、初対面の人の人生を理解しながら聞く難しさがあり、その人を知ろうとしなければ、お話しは聞いていたつもりでも文章としてまとめることができない」との気づきなどを活かしていくことが期待される。

参考文献

・市川一宏「コロナ禍における高齢者保健福祉を考える」2021 年度東京都社会福祉審議会資料

・日本能率協会総合研究所「新型コロナウイルス感染症影響下における高齢者の心身への影響」中間報告、『令和 2 年度老人保健健康増進等事業(老人保健事業推進費等補助金)　新型コロナウイルス感染症影響下における通いの場をはじめとする介護予防の取組に関する調査研究事業』

・駒谷なつみ他「高齢者への聞き書きを通して看護学生が学んだこと」　『保健科学研究』第 8 巻 1 号 2017 年